



# ミュージアム・レター

Gakushuin University  
Museum of History

# Museum Letter No.10

発行日 ● 平成21年(2009)7月17日

もくじ

辻 邦生没後10年によせて	1
私を「映画評論家」にした辻 邦生先生	2
我が師・辻 邦生先生	3
展覧会のご案内	4

## 1. 辻 邦生没後10年によせて

社会への鋭い視線と、人間に対する温かいまなざしで、壮大な作品を生み出し続けた辻 邦生が亡くなって、今年で10年を迎えます。

辻 邦生は、1925年(大正14)9月24日、東京市本郷区駒込西片町(現東京都文京区西片)に生まれました。赤坂で幼少期を過ごしたのち、旧制松本高等学校へ入学し、ここで生涯の友、北 杜夫と出会います。東京大学文学部仏蘭西文学科・同大学院を経て、1957年(昭和32)から3年半フランスへ留学している辻に、北はしきりに執筆を勧め、その原稿を出版社へ紹介し続けました。

帰国後、初の長編小説『廻廊にて』で近代文学賞を受賞、以後、織田信長を題材とした『安土往還記』(芸術選奨新人賞)、100の連作短篇から成る『ある生涯の七つの場所』、歌人西行の生涯を周囲の人々の語りによって描き上げた『西行花伝』(谷崎潤一郎賞)をはじめとした大作を次々と発表。また、作家ならではの豊かな視点で、絵画や音楽、映画、演劇に関する批評やエッセイを執筆し、精力的な創作活動をおこなっていましたが、1999年7月29日、滞在先の軽井沢で急逝します。享年73歳でした。

作家としてたくさんの愛読者を持つ辻ですが、フランス文学科(現フランス語圏文化学科)の教員として、35年間、学習院大学で教鞭を執っていたことは、あまり知られていません。

創作活動に関わる全ての資料を保管、整理している当館では、没後10年という節目に、学習院との深いつながりをご紹介したいと考え、本特集を組みました。本学の研究室で辻と同じ時間を共有した2人の教員が語る彼の素顔は、辻作品のファンのみならず、多くの方々を魅了するのではないのでしょうか。

教育者であり続けた辻の横顔と、生命を削りながら紡いだ作品に触れる機会となれば、幸いです。

(生田享子)

